

マルセイニュース 4月号

発行日 2015/4/23
 株式会社 マルセイ
 浦河町東町うしお1丁目
 〒057-0005 TEL 0146-22-5123



写真提供 地域おこし協力隊 中川 貢さん



浦河町制 100周年

30年後はどんな社会になっているのか。4月8日に文化会館で開催された「30年後の日本と北海道～消滅か再生か～」という講演会で、環境学者の石弘之さんのお話を聞きました。これから急速に人口が減少していく現実。その先頭を走るのは北海道なのだそうです。すぐ目の前に迫っている問題から逃げることはできないと、改めて知る機会でした。

今年“町制100周年”を迎える浦河町は、人口13,000人を割る日が確実に近づいています。石さんは、講演の中で「2040年には9,000人を切るだろうという避けられない現実に向かって、今からできることに取り組んでいかないと大変ですよ…」と示唆されていました。お話を伺って、自給率も高く、自然豊かな北海道に暮らしていることに感謝すると同時に、数十年先の将来に続くよう、自然も、少子高齢化が進む私たちの暮らしも、みんなで守り育てなければと、改めて思いました。

マックス

環境講演会
30年後の日本と北海道
～消滅か再生か～

全国で人口減少が進む中、その先頭を走るのが北海道です。30年後には人口の実に4割が高齢者になり、生活や福祉、産業など地方のくらしは大きく変わろうとしています。その一方、恵まれた自然環境を持つ北海道には、新たな可能性も広がります。日本を代表する環境学者であり、環境学者の石弘之さんをお迎えし、環境問題と地域再生について一緒に考えてみたいと思います。

●平成27年
4月8日(水)
 午後3時～5時

●浦河町総合文化会館
第1研修室(地階)
 電話 0146-22-5000

参加無料
申込み不要

講師 **石弘之 氏**
 環境学者・ナチュラリスト・環境学者
 朝日新聞社編集委員、東京大学大学院「北海道大学客員教授、桂坊シニア財団全権大使などを歴任。『世界』『朝日』『毎日』などで連載を行う。『地球』『マサ』、『環境クロー』の著者。毎日新聞道徳文化賞受賞。英国ロイヤル・ソサエティ会員。

＜主催者著作＞
 『環境問題報告11』 『地球・環境・人間』
 『11名所の神の地球環境史』 『食生活の地球史』 『環境史の世界史』 『火山噴火・動物絶滅』 『人口爆発』 等、多数

主催：北海道日高振興局 浦河町
 協力：エコ・ネットワーク
 問い合わせ先
 北海道日高振興局保健環境部環境生活課
 電話 0146-22-9252

講演会会場のミニシアターは、ほぼ満席でした。



春を告げる草花と目覚めたばかりの蝙蝠(コウモリ)

風景を巡るスタンプラリー

うらたび2015
 VOL.2

スタンプハウスを目印に
 牧場風景と春の浦河を満喫する30日間

2015
うらたび

オロマップ提供

2015/5/2(土)
 2015/5/31(日)

スタンプラリー「うらたび2015」も始まります！



九月初旬から働き始めた気田恭平くんは、三ヶ月の試用期間ののち正社員となり、毎日元気に働いています。真面目です。持久力があります。なにより謙虚です。営業マン向きではありませんが、それで構いません。汚れ仕事も嫌がらず、ひたむきに働いてくれます。汗かき体質なので、すぐに汗だくになります。

一生懸命働いている姿を見ると、よくぞマルセイに来てくれたと感謝の気持ちわいてきます。灯油を扱う危険物の資格はすでに取得しましたが、今年はガスと石油両方の設置や修理の試験を受けます。

来月早速、連続して資格試験を受験する予定です。資格は自分の財産にもなります。がんばって合格してもらいたいものだと、思っています。



上半期が終了しました

弊社は九月二十一日が年度の始まりですから、ちょうど今年度の半期が過ぎたところですね。この半年もいろいろな出来事がありました。一番のニュースはなんといいっても、新しい仲間をむかえたことです。

社長



「ネジ山が見えなくて無理だー」と爆笑～。雨の日の午後は目が効きません。(笑)目が薄くなるという言葉の意味がわかって来た56歳。

倉庫兼車庫を新設したことも、我が社にはビッグニュースでした。なにしろ半世紀も建っていた(斜めにですが)木造倉庫を解体して建て直したので、二台のクルマを入庫できるようになり、毎日潮風から守ってくれています。広いので機器の修理や道具のメンテナンスも、すごくやりやすくなりました。倉庫は室内も外灯もLED電灯にしました。すごく経済的です。倉庫を建て替えられる日が来るとは、なかなか想像できませんので、本当にうれしいものです。

この冬は記録的な暖冬で、北海道の灯油出荷量は大幅ダウンだったと聞いています。弊社も昨年比はよくありませんが、なんとか数字を残せたのは幸せでした。マルセイから灯油を買っていただいているお客様のおかげです。ありがたいと思うと同時に、次の冬もよろしくお願い申し上げます！

おまかせ下さい。経験も豊富です

家庭ごみの片付け仕事

「ごみの分別」も含めてお引き受けすることもできます！



転勤シブンのほじまりに、「マルセイさんですか？」
「少しだけなんです。片付け仕事のお問い合わせ

せをいただきました。初めてのお客様でしたが、お約束の当日、「いつもマルセイニュースを楽しんで読んでいたのですが、忘れられない思い出のある方が幾人もいます。仕事を通じての一期一会、うれしいものです。ありがとうございます。

今年も、転勤で浦河を離れるに際して、このように当社をご利用していただく方がいらつしやいました。ありがとうございます。

たった一度のお仕事を頂いたご縁の方であっても、今までお話をさせていたただいた中で、忘れられない思い出のある方が幾人もいます。仕事を通じての一期一会、うれしいものです。

「二期一会」の仕事もうれしいものです

ところで、マルセイニュースはインターネットのブログページでも見ることが出来るようにリンクさせています。よろしければ、浦河を離れた後もご覧下さい。そして、引き続き、浦河と私たちの小さな会社の応援をしていただけたらとてもうれしいです。よろしくお願いたします。



当社は様似町の一般廃棄物収集運搬の許可も有しています。ご紹介をいただき、様似町で収集運搬のお仕事をさせていただきました。様似町の一般家庭のお仕事は久しぶりでした。





当社の女子パワーに社長も若者もタジタジ？



今年は早くからスタート！

2015 環境整備を進めています

浦河も、今年は少し早目の春を迎えています。マルセイも、いつもの年より早く屋外の環境整備をスタートさせました。

砂利入れ作業

先ずは、気になっていた新しいホワイトハウス周りの沈んだ地面へ、砂利入れをしました。いつものようにばわふる組長の陣頭指揮のもと、みんなでワイワイと頑張りましたよ。

社長や女性たちがスコップで一輪車に砂利をのせると、若くて力のあるキョウちゃんが運びます。手分けして砂利をならした後は、英司くんが転圧機を使ってきれいに地ならしをしていきます。見事？なチームプレー。(笑)



若者たちよ、ありがとう！

車輛の整備に取り組んでいます

昨年から故障車輛が続出。長年頑張ってきたトラックたちも、いよいよ入れ替え時が来ました。どうか良い中古車を探してくださいと取引業者さんをお願いしていました。ありがたいことに希望していたような車輛が見つかり大喜び！当社の若者たちが、長く使うために、丁寧に整備を進めてくれています。頼もしい！！



当社の若いふたりといえ、キョウちゃんこと気田くと英司くん。この二人、何だか毎日とても楽しそうに仕事をしています。その様子を見ている私たち（おじさんとおばさん）もとてもうれし！楽しく仕事に取り組んでいる姿を見られるのは、すてきなことです。

当社の働く車たちはなかなかの高齢。サビや傷みが目立つ通称「ごみ収集車」は、助手席側は雨が吹き込んでいました。本当は折りたためるはずの動かないサイドミラーのほか、傷み具合をあげるときりがないほど。それでも、お正月と日曜日を除いてほぼ毎日、年中働いてくれている頑張り屋さんの「高齢車」です。



修理に出すことが多くなつたこの車ですが、何とか冬を無事に越してくれました。ありがたい！でも、いよいよ怪しい感じがしています。このままある日突然動かなくなつて、仕事に支障を来たしては大変とドキドキしていました。新しい中古車輛を見つけていただき本当にありがたいです。



これから大切に乗りたい車輛ですが、少しでも使いやすいようにと、若者たちが色々工夫を凝らして使用準備を進めています。次の「ごみ収集車」は今までの車輛に比べると少しサイズが小さくなりませんが、手入れをしながら大切にしたいと思えます。



実は今、東京オリンピックや東北の震災復興などで需要が多いトラックは、新車も中古車も、すぐに手に入れるのは大変難しい状況が続いているそうです。そんな中、私たちの要望に添った車輛を見つけなくてくださいました。ありがとうございます。



34歳のステキな女性！
まちで見かけませんでしたか？

浦河にテレワーク滞在したフランス人のシブさん 「きっとまた、近い将来、浦河へ来ます！」



冬季間の体験移住促進事業として取り組まれた今年のテレワーク事業が終了。浦河町地域おこし協力隊の活動を知り、浦河町に興味をもって応募したという人が多く、参加者は昨年の2人から、今年は7人に増えました。その中から、3月に3週間滞在されたフランス人(シンガポール在住)の舞踏家 Syv Bruzeau (シブ) さんに感想を書いていただきました。ご紹介させていただきます♪



多目的貸しスペース「かぜて」を会場にして、フランス料理教室も開催。ベトナムやタイで料理人の経験もあるシブさんと一緒に、たくさんの若者が集って多国籍料理を楽しみました。

そこで私の知識や経験を活かして、新冠町朝日小学校の先生と協力して、フランスの学校の様子や子供遊びの紹介、表現運動の内容を老人と共に歩む会「愛の会」では高齢者向けのプチ・フランス語教室と、家で出来るストレッチ運動の紹介をしました。町の方を対象に、フランス料理教室をしました。

地域の方と様々な交流

テレワークは、普段と違った環境に身を置き、自分ができることを提供する、地域の方と交流して浦河を知るといったことが趣旨でした。



ダンサー、語学教師、運動療法セラピストなど様々な資格を持つシブさん。英語、フランス語の他、日本語検定1,2級も所持しているとあって、日本語も大変お上手でした。

また、地域の方との交流として、そば作り・着付け・華道・茶道・染物・陶芸の体験、牧場見学、アイヌ文化に触れました。その他、様似や襟裳岬に出かけたり、山でのピクニックを通して自然も堪能しました。

これらの体験を通して、地域の方の日常生活に触れることが出来ました。海と山に囲まれ、自然がいっぱいの場所でも過ごせてとても幸せでした。北海道への移住を考えている私にとつて、北海道最初の訪問地ー浦河町での滞在は素敵な冒険となりました。

テレワーク中、北海道への移住について考えました。移住の際重要なのは、仕事を見つけることではなく(もちろんお金は必要なのですが)、地域に貢献することだと思います。人と係わりを持ち、知識や技術を共有し、お互いの考え方や違いを学ぶ合うことで共に何かを構築できます。だから、地域の人の生活スタイルや、将来の夢を聞くのはとても面白かったです。

私は、幸せで、充実した、クリエイティブな生活を夢見て生きていますが、北海道は地域との連携によって、その夢を実現し広げていける場所だという希望を持っています。

私に色々なことを教えてくれた浦河の人・物すべてに感謝していました。きっとまた近い将来、浦河に来ます。

テレワーク事業参加者 シブ



テレワーク期間中、参加者の方々が行う活動の調整を担当。出来るだけ浦河町の魅力を知っていただくための機会や場所作りをしました。私自身が浦河町にきて3ヶ月ということで、まだまだ紹介できることも少ないのですが、そんな中、参加者の皆さんに浦河町を気に入って滞在を終えていただけたのは、周囲の方や地域の方の協力があつたからです。

滞在期間が限られているため、急に連絡をとつて無理なお願いをすることもありませんでしたが、地域の皆さんには毎回快く引き受けて対応していただき、その協力態勢にはいつも感謝の思いでした。

フランス人のシブさんは、地域の方々と交流し、普段の生活に触れることが出来たことをとても喜んでいました。今までは日本には何度か来られており、ある程度日本のことはご存知ですが、浦河町の人は、フレンドリーでオープンで、他の場所とは違うという印象を持ち、本当に浦河ファンになりました。

今回の体験を通して、私も更に多くの浦河町の魅力に触れることができ、浦河町の未来に大きな希望を見出しました。

浦河町地域おこし協力隊

五十嵐 早矢加



うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会

地域デザインカフェ Vol.28

「ママトーク発 うららべつふえすた行 奇跡の旅路～」

うららべつふえすた実行委員長 星明子さん

4月9日(木) 東町ふれあい会館 19:00～21:00 参加費500円



来月のデザインカフェは、5月14日(木)、東町ふれあい会館で開催します。浦河でいちごを生産している方々の熱意が伝わるカフェになりそうです。どうぞお楽しみに！

女性のパワーはすごいなあ。第28回地域デザインカフェの参加者は、なんと46名！この春から浦河に赴任した方や、隣町から参加された方など、初めての方も数多く参加された賑やかな場になりました。

カフェマスターには、間もなく3回目の開催を控えているうららべつふえすたの実行委員長、星明子さんをお願いしました。ワークシヨップの手法も取り入れ、「なぜ駅？」「まさかの馬」など、今までに開催されたうららべつふえすたの中から選んだキーワードを「お品書き」として用意。参加者の皆さんからは、それを使ってたくさん質問が出されました。

うららべつふえすたに実際に参加した方、協力した方との掛け合いも交えながら終始リラックスした雰囲気のカフェで、皆さん本当に楽しんでいましたね。すべての片付けを終えて会場を出る時間がつい遅くなりがちなほど。異業種で多世代の人がワクワクしながら集う最近のデザインカフェです。

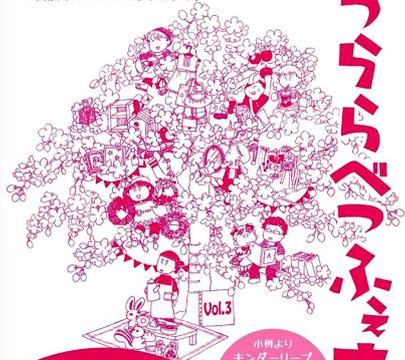
浦河駅で開催してきた1回目2回目は、手作り雑貨やカフェの他、ポニー馬車や、カードゲームなどで遊ぶゲームホリデーなど、自主的に参加して盛り上げてくれる仲間がいました。跨線橋を活用した写真展、子どもに優しい読み聞かせや紙芝居など、紙面の都合上全てを紹介できないのが残念ですが、どちらもたくさんの方に参加していただきました。浦河駅は予想以上の方に楽しんでいただけただけですが、何よりもの喜びです。

2012年12月、町内のパン屋さんをお借りして手作り雑貨『1DAYS HOP』をママ友と開催しました。それを機に、できるだけ地元の人に参加してもらい、人のつながりや交流を大切にしたいイベントにしたいと、子育て中のママたちで企画したのが『うららべつふえすた』です。



5月16日(土) 10時30分～15時30分
お誘いあわせて
ぜひ、遊びにきてください！

手作り雑貨も Cafe & Food もさらに充実！
1日限りのマルシェはじめます。



5月16日(土)
10:30～15:30

浦河町勤労者体育センター
& 勤労青少年ホーム

〒998-8501 浦河町東町1丁目1-1 (旧橋のすくぐり)
お申し込み、お問い合わせ先は会場までお電話ください。
お申し込み、お問合せ 050-556-2999

浦河駅で開催してきた1回目2回目は、手作り雑貨やカフェの他、ポニー馬車や、カードゲームなどで遊ぶゲームホリデーなど、自主的に参加して盛り上げてくれる仲間がいました。跨線橋を活用した写真展、子どもに優しい読み聞かせや紙芝居など、紙面の都合上全てを紹介できないのが残念ですが、どちらもたくさんの方に参加していただきました。浦河駅は予想以上の方に楽しんでいただけただけですが、何よりもの喜びです。



ママだからやりたかったこと、できたことがあります。子ども連れに優しく、親子で楽しめる遊びや体験ができること。『うららべつふえすた』では、いろんなアイデアを、ママの視点を中心にしながら企画しています。

3年目を迎えることとなった今回は、勤労者体育センターの体育館と、青少年ホーム、その駐車場で開催します。

手作り雑貨は、作家さんたちのやる気につながっていくよう、作品や商品をゆつくり見ってもらう場や販売する機会を提供しています。手作りの楽しさをたくさんの方に知って体験してもらいたいと思い、ワークシヨップも盛んに行ってきました。手作りの良さを見直すきっかけになれば嬉しく思います。

昨年好評だったすみ書房(札幌)の駅舎内での書籍販売は、今年は浦河町に昨年オープンした『六畳書房』が出張販売します。うららべつ限定の『ブックカフェ』としてどんな新しい空間が出来上がるのか楽しみです。

美味しい食べ物他に、ライブ演奏や小樽キンダーリースのカードゲーム大会とヨーロッパ玩具販売など、イベントも盛りだくさんです。スタンプラリーやおもちやのコーナーなども用意し、要望の多かった男のお子様も楽しめるように準備を進めています。

皆さまにとって良き一日となるよう、参加者、スタッフみんなで盛り上げていきますので、お誘い合わせて、ぜひ遊びにきてください。

うららべつふえすた実行委員長

星明子

「お料理、参考にさせていただきました。美味しかったよ。ありがとう」とお電話をいただいた方もいたほど、先月のお料理も大変喜んでいただきました。



どうです、この美しい照り！豚肉バンザーイ！

ガスを使っておいしくクッキング

柚子こしょうの甘辛タレをからめて

キャベツの豚ロール

やっぱり豚バラが大好き！というばわふるが見つけたこのレシピ。なんかい〜い感じです♪ひと味違うキャベツロールのポイントは「柚子こしょう」です。色々使えてとても便利です。ほんとうに美味しかったよ、さっちゃん♪



●材料(2人分)

キャベツ 1/4個
豚バラ薄切り 300gくらい
塩、こしょう 軽く全体に
薄力粉 大さじ1～
サラダ油 小さじ1



●合わせタレ

しょうゆ 大さじ1と1/2
酒 大さじ1と1/2
みりん 大さじ1と1/2
砂糖 大さじ1
粗切り柚子こしょう 大さじ1/2～



●作り方 (参考 イェジンさんちのレシピ)

1. キャベツは放射状に切って、しっかり水を切っておきます。
2. キャベツに豚肉を巻いて、軽く塩こしょうします。ばらけやすいキャベツですが、お肉で巻いてまとまればOK！大丈夫です。
3. さらに薄力粉を茶こしを使い、うすく振りかけます。このひと手間で、タレのからみがグーンとよくなります！
4. フライパンに油を馴染ませたら、中火でキャベツを焼きます。焼きつけるようなイメージで、8割くらいまで火をいれましょう。
5. 合わせタレを入れる前に、フライパンの中の余分な油をペーパーで拭き取りましょう。それから合わせタレを投入～！まずは中火で、沸いてきたら弱火にします。タレにとろみが出て、豚キャベツに馴染んだらでき上がり！



🥬 今月も大ヒット！お料理してみてください



これで3か月連続の★★★！ちょっと出来過ぎのようですが、今月も本当に美味しかったのですから仕方ありません。このレシピの、特に「合わせタレ」は色々利用できそうですよ。自分流にアレンジして、ぜひご家庭の定番料理に加えて下さい。

自宅練習までして準備したさっちゃんが当日工夫したポイントがあります。「食べやすいように、長い豚バラは半分くらいに切って巻く」「薄力粉を多めに」「タレは分量よりも多めに作る」。さて、今夜のおかずはこれに決まり♪

試食した人	今日の料理は★いくつ？(最高得点 ★3個)
デザイナー 小野寺千穂 (3.0)	★★★ 「柚子こしょう」のアクセントが最高。 これってお弁当にもいいですね。
小山社長 (3.0)	★★★ 今日のも旨くて、星の数下げられないなあ～
キョウちゃん (3.0)	★★★ ボリュームもあっておいしいです。
マックス (3.0)	★★★ 新キャベツも柔らかくて美味しい～♪
ばわふる (3.0)	★★★ やっぱり、「豚バラ」だよな～ ^^
おかん (3.0)	★★★ 鶏肉だと脂が固まらないし、色々使えるね
さっちゃん (3.0)	★★★ 前日にシュミレーションもして、頑張りました！



浦河に移住して1年半。町制100周年の記念ロゴのデザインは、最近独立企業されたデザイナー、小野寺千穂さんの作品です。

7. 「アサリのスープカレー」「チーズケーキ」「鯖のトマト味噌煮」に続いて、なんと今月も星3つ！来月こそ社長の出演で下がるかなあ～？

『7つの習慣』

スティーブン・R・コヴィー 著

「現在の仕事で成果を出すためにも、長期的により良いキャリアを歩むためにも、仕事の原理原則を理解し、修練するのは大切なことだと思います。そのための本は私にとっては『七つの習慣』一冊で十分で、この本を何度も振り返って、仕事に活かしたいです。」（渡邊文隆さんのブログ『IPS細胞ファンドレイジング日記』より）



2013年10月、第1回エルム塾の講師として当時32歳の渡邊さんが、浦河へ。たった一人で年間数億円の寄付金を集めると聞いて、大変驚きました。

「フランドレイザーなんて、しゃべりの上手さで仕事をしているんじゃないの？」という個人的な偏見があったのですが、そんな先入観を持っていた自分を恥じ入りたくなるほど文隆さんのお話は素晴らしいものでした。交通事故で父親を早くに亡くされた文隆さんは、あしなが育英会の支援があったおかげで京都大学に進学することができ、学問に取り組むことができたといいます。そのことへの深い感謝の気持ちに満ちた人でした。「寄付」という行為は、ときに係わった人間をとっても幸せにする力があるんだという内容だったのですが、初めて会った青年の話にほんとうに感銘を受けました。

わたなべふみたか
渡邊文隆さんはフランドレイザー（寄付募集専門職員）として大学の研究所で働いている方です。二年前に浦河に来ていただき、仲間と話を伺いました。



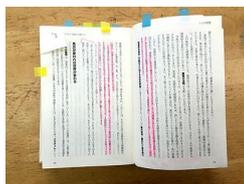
その文隆さんが自身のブログで『七つの習慣』が座右の一冊だと書いていたのを読み、今月の本に選んでみました。

本書は日本でも百万部以上を売り上げたそうですから、読んだ方もいらつしやるでしょう。マンガにもなっています。わたしは四十代前半にこの本に出会い、くり返し読みました。その頃のわたしはいろいろなことつじつまが合わないくなり、仕事も人間関係もどうにもならなくなりかけていました。そのときにこの本を読みました。

共通する態度や行いがある

人生が生き詰まる羽目になる人たちには、共通する態度や行いがあることが、説得力を持つて書かれていました。たとえば、つぎのようなこと。

行動でつくった問題は言葉でしまかすことはできない。



社長

当たり前前のことを言っているようですが、こんな常識を意外と忘れてしまっています。ときには「言葉のごまかし」は、短期的あるいはその場だけでは有効なこともありますから。だからわたしたちはついつい、言い訳や他人の悪口のような言葉のゴマカシに頼ってしまう（そうじゃない人も、勿論います）。しかし長い目で見ると、ごまかしは必ず見破られてしまいます。だから本書はくり返し「見せかけの成功」に手を出すことの危険性を、戒めています。

「かわいい隠れんぼ」という童謡がありますね。
「ひよこがね、お庭でひよこびよこかくれんぼ どんなに びよこかくれんぼ どんなに あんよが見えてるよ」という、あの歌です。
どんなに言葉巧みにつくろったところで、正体は分かるものだ、この歌のとおりだということを教えてくれる本です。わたしは格好つけなので、この本は手放せません。

「老い」を明るく迎えられたらいいなあ…



朝の老舗喫茶店で一人、モーニングセットで朝食中の札幌での出来事です。となりのテーブルには、七十代くらいのご夫婦とご高齢の女性の三人が、同じように朝食中でした。どうやら、本州に住む娘さんご夫妻と、札幌で独居生活をされているお母さんのようです。この日は年に数度は訪れている娘さん夫婦との、久しぶりの再会のようにでした。

「母さん、痴呆を疑ってるの？ 大丈夫、そのくらいの物忘れは私たちだって同じようにあるんだから」。聞くとともに、静かな店内ゆえに家族の会話が聞こえてしまいます。

「母さん、九〇歳前後の六人いる兄弟全員が元気なんてすごいことよ。」「母さんは、100割完璧じゃないと嫌がるけどね、お医者さんが飲まなくても大丈夫と言っているのは、母さんが何ともないからなの。」「私たちの方が母さんより先にあの世に行くかもしれないわ。」「しっかりしててすごいなあと思うたこのお母さんは、現在九四歳。

「母さん、いくつまで生きるつもりなの？ すごいわ。きつと百を過ぎて大丈夫だね、そのつもりでしょ？」。なかなか率直な娘さんの言葉が続きます。

お母さんの返答の数々がステキでした。「そうね。弱つて来ているけど、お医者さんたちもお友達も、百歳過ぎてても元気そうっていうのよね」。溜息をつきながら、「ほら。やっぱりそう。百歳過ぎてても生きていく気であるんだわ。すごいわあ」と話す娘さんに、「まあ、今日でもう会えないかもしれないけど、あなた方も元気でいてちょうだいね」。

娘さんの隣ではご主人が、ただただ二人を微笑ましく見守つていらつしやいました。失礼ながら私も、コメントのように面白いやり取りに、思わず一人微笑んでしまいました。

マックス



マルセイ生まれの野良ネコを拾ってから、8年になります。父の猫でしたが、今は母にとっても良き家族です



社長のちよつと長いコラム

「福福荘の福ちゃん」

大黒座さんで『福福荘の福ちゃん』を観ました。主演が、森三中の大島美幸です。無口でお世辞にもイケメンとは言えない主人公は、ペンキ塗り職人です。ほんとは心優しいのですが、口下手でまともに女の人と話をしたこともない。そんな坊主頭のブサイクな若者(男役です)を大島が好演していました。

軽妙なコメディ映画で、笑いながら観ているうちにラストまでできてしまうという、よく出来た作品でした。けれど、ところどころに考えさせられるセリフがちりばめられていて、いい脚本だなあと感じました。作者の声高でないメッセージが伝わりました。

思い出しやすい場面がいくつかあるのですが、わたしがとくに好きなのは、福ちゃんの中学院時代の同級生が福福荘を訪ねてくる場面です。福ちゃんは中学生のころ、この美人のクラスメートに恋心を抱いていました。そのことを知った男の友人たちと女子のクラスメートたちが、(ドッキリカメラふう)に福ちゃんをだましからかうのです。いたずらは大成功するのですが、福ちゃんは深く傷つきました。以来、女の人を避けて生きてきました。



福ちゃんを探し当てたかつての女生徒が、手をつけて自分のしたことを詫びます。今さらどうでもいいことだ、と言いつ返されてひとり帰り道を歩いていると、自転車に乗った福ちゃんが追いかけてきて言います。

「さつきはああ言ったけど、謝ってもらったのはやつぱり、よかった。」こうしてクラスメートとの新たな関係が始まります。このシーンは、ほんとうによかった。

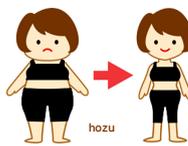
かつてのクラスメートは、どんなに罵倒されても、殴られてもそれは自分が悪かったからだという覚悟で、足の震える思いで会いに行つたはずですが、でも心底から謝ることで、彼女は自分のとらわれを開放しました。勇気のいることだと思えます。

後日、この映画の話が友人にしました。気の置けない友人です。すると彼は、思いがけないことを言ったのです。自分も学生時代イジメられたことがあるんだ、と。「十代の半ばころ、あるグループが自分をからかいはじめた。いやではあったが、自分にもかばってくれる親しい友人がいた。その友人の**が、ある日を境にして自分をからかうグループのほうに行つてしまったんだ。それからのことは、思い出したくないイヤな記憶だよ。」初めて聞きました。

話には意外な続きがありました。「いまからずいぶん前、三十才を過ぎたころに**から電話があつたんだ。会いたいって。何だろうと思つたけど、会うことにした。その日のことは忘れないね。〇〇〇のスターバックスで会つた。かれは、俺に謝りたいつて言うんだ。あのときの自分は間違つていた、恥ずかしい行いをした、それを謝罪したいって。驚いたね。でもうれしかった。自分は今も人からからかわれるような人間じゃないから気にしなくて良いと、答えたよ。「わたしは涙が出てしまいました。かれは最後にこう言いました。「ソイツだけど、じつに気持ちの良い大人になつていたなあ」。



さのばわふる日記



あく、自分の意思の弱さに嫌気がさす。冒頭からこの始まりが何を意味しているのか、ばわふる日記で私を知っている方なら想像がつくことと思えます。

先月号でエンジンがかかり飛ばしたのは事実。ところが障害物だらけの毎日。

それでも新年の目標を宣言してから増量した分については、なんとか振り出しに戻した。だから今はまだ、スタートに立っているという状況。



先日、新聞一面に載った広告に目がいき、出勤するなりみんなに見せると、社長曰く「楽しんで痩せようとする考え事態...」と男性陣には失笑されてしまつたが、すぐさま飛びついてきたのが、みなさまお分かりですね。

そう、マックスさんです。

その広告を見て、「買おう！買おう！すぐ注文しよう」とノリノリ。

でも、そこで私は冷静になり「今までを振り返りましょう」と乗り気なマックスさんを制止。

この人に同調してはいけな、と心に強く決めたのについついマックスマジックにかかつてしまう。確か、新年の目標として一番先に口にだし、私にも強要し掲げた目標のはず。

それなのに全くヤル気のないマックスさん。

そんな彼女を見て心配しているのが社長。何が心配かと言うと、マックスさんが目標達成出来ない場合↓減俸になる↓家計が一緒の社長のお小遣いが減らされる。

こういう流れが想像されるからです。

社長、このままでいいのですか？

つつく

発行 株式会社マルセイ

灯油・プロパンガス販売・機器修理
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業

夏季期間(4月~10月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 8:30~5:30(土曜3:00)



編集 おはなし家(マックス) 発行部数 3400部

【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com

【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してみてください

〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3

TEL 0146-22-5123 FAX 0146-22-5789